

栄養茨城 FLASH No.24

発行所
公益社団法人 茨城県栄養士会
〒310-0034 水戸市緑町3-5-35
TEL: 029-228-1089
FAX: 029-228-4271
<http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/>



発行日 / 令和8年3月1日



CONTENTS (もくじ)

- ② 会長あいさつ・役員紹介
- ③ 受賞おめでとう
- ④ ヘルシーメニューコンテスト
- ⑤ 私たちの職場紹介 - 福祉編 -
- ⑥ 研修会報告／専門研究会別研修会報告
学会発表レポート
- ⑦ 大阪・関西万博展示／来年度研修会
- ⑧ 連盟活動報告／賛助会員活動一覧
編集後記

▲定時総会研修会 谷本道哉先生の講演の様子

令和7年5月22日(木)ザ・ヒロサワ・シティ会館において、公益社団法人茨城県栄養士会第14回定時総会並びに日本栄養士連盟茨城県支部総会が開催され、役員の改選が行われました。

公益社団法人茨城県栄養士会

会 長	石川 祐一
副 会 長	益子 慎司
副 会 長	島田 亜紀美
常務理事	鈴木 薫子
常務理事	秋山 隆
常務理事	根本 偉代

日本栄養士連盟茨城県支部

名誉支部長	石川 祐一
支 部 長	矢代 あや子
副 支 部 長	稲葉 和枝
副 支 部 長	田中 富美枝
幹 事 長	谷津 幸子
財 政 部 長	宮本 未奈子

役員紹介



公益社団法人茨城県栄養士会 会長 石川 祐一

このたび、茨城県栄養士会会長として二期目を務めさせていただくこととなりました。一期目では、会員増対策に加え、茨城県との協定締結に向けた災害支援体制の構築や人材育成の充実に取り組み、会員の皆さまが安心して専門性を発揮できる環境づくりを進めてまいりました。

二期目では、手薄となっている在宅分野の強化をはじめ、管理栄養士・栄養士の役割や成果を社会に分かりやすく伝える「見える化」を推進し、専門職としての存在価値をさらに高めていきたいと考えております。多様な現場で活躍する会員の声を大切にしながら、栄養士会がつながりと学びの場となるよう、皆さまと共に歩んでまいります。今後とも茨城県栄養士会へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



副会長 福祉専門研究会 会長 益子 慎司（特別養護老人ホーム成華園）

総務部長・組織部

皆さんの温かな支えに感謝します。笑顔で学び合い、地域にやさしい栄養と福祉を届けたいと思います。



副会長 島田 亜紀美（下妻市立下妻中学校）

事業部長・組織部

健康教育に関わる皆様、一緒に給食管理や食育指導のスキルを磨きましょう！最新情報が提供できるよう、魅力ある事業を企画してまいります。



医療専門研究会 会長 鈴木 薫子（常磐大学）

学術部長・組織部

これからの病院管理栄養士はどこへ向かうのか…。皆さんがワクワクするような研修企画ができればと思っています。共に研鑽していきましょう。



学校健康教育専門研究会 会長 保立 貴博（ひたちなか市立美乃浜学園）

組織部

今年度より新たに会長を拝命いたしました。大役を仰せつかり、身の引き引き締まる思いです。微力ながら、栄養士会の発展のために全力を尽くす所存です。



研究教育・公衆衛生専門研究会 会長 秋山 隆（常磐大学）

組織部・学術部

当専門研究会の会長を拝命しました。養成校と行政栄養士の先生方の双方が役立つ活動を企画してまいりますので、皆様のご協力の程を宜しくお願い致します。



地域活動・勤労者支援専門研究会 会長 根本 偉代

組織部長

R7年度、茨城県栄養士会総会にて『地域活動・勤労者支援専門研究会』と新名称になりました。これから新たに、会員の皆様と歴史を刻んで行きたいと思っております。

受賞おめでとうございます

永年の栄養士活動が認められ、令和7年度表彰された方々をお知らせいたします。(敬称略)
受賞者の皆さま、心よりお慶び申し上げます。

栄養関係功労者厚生労働大臣表彰



栄養関係功労者

渡邊 光子

茨城県知事感謝状受賞

第14回定時総会

内藤 智子(地域活動・勤労者支援)
吉見 泉(医療)

県民健康づくり表彰

秋山 収子(地域活動・勤労者支援)
住友 かほる(鯉淵学園農業栄養専門学校)
松本 貴子(医療)
矢代 あや子(特別養護老人ホーム 愛友園)

茨城県保健医療部長感謝状受賞

第14回定時総会

宇和島 美智江(セバック株式会社)

県民健康づくり表彰

石島 牧子(障害福祉サービス事業所 あすなろ園)
植田 琴(東海村立東海中学校)
齋藤 民子(療育食プランニング研究室)
柳 ひろみ(福祉)



▲県民健康づくり表彰式の様子





生きて腸にとどく
乳酸菌 シロタ株

[65ml] [65ml]

水戸ヤクルト販売株式会社 古河ヤクルト販売株式会社
いわきヤクルト販売株式会社 千葉県ヤクルト販売株式会社

[商品に関するお問い合わせ] ヤクルトお客さま相談センター
☎ 0120-11-8960 携帯電話からは ☎ 0570-00-8960 (有料)へ
受付時間 10:00~16:00 (土日・祝日・夏季休業・年末年始等を除く) ※時間を短縮しております。

8名の熱意が共演！ヘルシーメニューコンクール

令和7年11月30日(日)茨城キリスト教大学にて、「令和7年度ヘルシーメニューコンクール二次審査会」を開催しました。本コンクールは食を通じた生活習慣病の予防を推進することを目的として毎年開催され、今年度は「健康に無関心となりがちな働く世代の方も手軽で健康的な食事がとれる、野菜たっぷりな1食」をテーマに募集を行い、201点もの応募が寄せられました。10月下旬に行われた一次審査（書類審査）を通過した8名が会場に集い、実際に調理をし、審査員による試食審査が行われました。



▲最優秀賞「茨城の野菜たっぷり韓国風定食」

審査員長の小西優子先生（茨城キリスト教大学准教授）からは、「限られたエネルギー量の中でも、量的に満足感のあるメニューが多く、野菜をしっかり摂取できる点や彩りの良さが印象的だった。」との評価がありました。最優秀賞に選ばれた潮崎さんの作品については、「美味しさに加え、作りやすさや普及性の点でも優れていた」と高く評価され、優秀賞の各作品についても「いずれも甲乙つけがたい素晴らしい内容だった。」と講評をいただきました。

二次審査会に参加された8名の作品はいばページパンフレットに掲載され、県内のスーパー、市町村等に配布を予定しております。また、2月12日(木)に県庁生協食堂カフェテリアひばりにて、最優秀受賞作品が定食メニューとして提供されました。9月には優秀賞受賞の一部作品が定食メニューとして提供される予定です。



▲調理の様子



90分と限られた時間の中で調理と盛り付けを行いました。会場には、彩り豊かな料理が並び、旬の野菜をふんだんに使ったメニューや家庭でも再現しやすい料理や見た目にも楽しい盛り付けなど、どの作品からも参加者のアイデアが感じられました。審査の結果、最優秀賞には潮崎純子さん（栄養教諭）の「茨城の野菜たっぷり韓国風定食」が選ばれました。優秀賞には飯田晶子さん（栄養教諭）の「和風ビビンバ彩りごはん」、浜井久美子さん（栄養教諭）の「いばらき×アジアンメニュー」渡辺麻美さん（学生）の「いばらきの恵みたっぴり！美味しく低GIランチ」の3点が選ばれました。



▲石川会長・小西審査員長・参加者の皆さま

二次審査会の様子はYouTubeチャンネルにて動画公開中です。ぜひチェックしてみてください。



私たちの職場紹介—福祉編—

特別養護老人ホーム日立市萬春園 金子 純子さん



当施設は、昭和50年に日立市により設立され今年50周年を迎えました。令和5年6月には新しい施設へ移転し、特別養護老人ホーム100床・短期入所（空床型）に加え、居宅介護支援事業所を併設しています。平均介護度4.1、平均年齢84.3歳と重度化や高齢化が進んでいる現状ではありますが、地域や関係機関との連携を大切に、開かれた施設運営に努めています。給食運営は、新施設への移転に伴い、令和7年度より給食業務を直営から委託へ切り替え、管理栄養士2名体制、平均食数90食、経管栄養者10名、食事形態は常食からミキサー・ゼリー食まで対応しています。行事食については、季節や日本の伝統行事を感じていただけるよう利用者様と職員がともに関わる参加型の取り組みとして実施しています。管理栄養士が中心となり、給食委託業者含め多職種で協議しながら行事食の企画・実施を行っています。また、職員にとっても、食事場面を通じて利用者様の新たな一面を知る機会となり、多職種連携の強化やケアの質の向上につながっています。

新施設移転における厨房の再整備は、計画段階から開設後の安定した給食運営まで一連の業務に携わることができました。利用者様へより質の高い食事を提供するために、安全性・衛生管理・作業効率の向上を重視した調理体制の構築を目指しました。計画段階では、提供食数や食事形態の整理を行い、調理方式の検討、厨房レイアウトや作業動線の確認、調理機器・備品の選定に関与しました。特に、HACCPを意識した衛生管理動線の確保や、調理・盛付・配膳・洗浄工程の明確な区分が適切に行えるかを専門的視点で確認し、実際の運用を見据えた提案を行いました。移転直前から当日および開設初期には、ディスポ食器を使用し簡素化した献立や調理済食品の活用を含めた食事提供体制を調整し、摂取量や残食等を継続的に確認しました。多職種と密に情報共有を行い、嚥下状態や嗜好変化に応じた食形態の調整を行うことで、環境変化による低栄養リスク防止に努めました。移転後は、厨房内における作業工程や衛生管理体制の定着を図り、調理員の勤務体制や作業効率を検証しながら改善を重ねていきました。新施設移転という大きな変化の中で、利用者様の栄養管理と食事提供を継続することは、管理栄養士としての責任を深く自覚することができ、多くの学びと気づきを得る貴重な経験となりました。旧施設では、限られた設備や環境の中での栄養管理と食事提供に

努めてきましたが、その経験があったからこそ、新施設での設備の充実を活かし、より安全で効率的な食事サービスを実現できていると感じています。

令和3年度介護報酬改定にて栄養ケア・マネジメント強化加算制度が導入され、当施設においても算定を行うための検討が開始されましたが、当時は給食運営が直営であることから管理栄養士2名体制であっても調理員不足等による給食管理業務の負担が多く加算の算定までには時間を要しました。まず、栄養ケア・マネジメント強化加算算定要件を満たすための準備を開始しました。研修で得た内容の確認や算定を開始している他施設への見学と情報収集を行いました。そして、算定要件を満たすために管理栄養士2名の業務内容・配分の見直しを行い、さらに昼食時ミールラウンドの徹底と記録方法を改善しました。記録は、介護ソフトを活用し利用者様個々人の食事内容記録が多職種で共有できる体制を整えました。そして、栄養ケア・マネジメントの内容や加算の算定について職員全体で正しく共有するため、給食会議等を通じて情報共有を行いました。算定開始までの準備期間においては、LIFE提出データの集計と作成、試験的に提出し漏れ等がないかの確認を徹底しました。算定の開始については、前述したように、新施設移転が伴うため、利用者様の生活環境や支援体制に大きな変化が生じることから、移転後の運営体制が安定し、継続的な対応が可能となったからの算定開始となりました。

算定開始後、職員の食事に対する意識が向上し、日常のケアにおいても栄養状態を意識した関わりが定着してきています。食事摂取量や体重変化、食事時の様子などについて、職種を問わず情報共有が行われるようになり早期に変化へ気付く体制が強化されたように感じます。

今後の課題として、管理栄養士の関与による栄養ケアや支援は定着しつつある一方で、LIFEへの提出データやフィードバックを十分に反映しきれていない点が挙げられます。今後は、LIFEから得られる結果を多職種で共有し、ケアの見直しや支援内容の改善に積極的に活用することで、科学的根拠に基づいた栄養ケアの質の向上を目指していきたいです。



研修会報告

第14回定時総合研修会

ザ・ヒロサワ・シティ会館にて第14回定時総会（令和6年度事業報告、令和7年度事業計画等の議事）が開催されました。研修会では、「第4次健康いばらき21プランについて」茨城県保健医療部健康推進課係長 飯田裕佳先生より、「身近で手軽に実践できる健康維持増進のための筋力トレーニング」について、順天堂大学スポーツ健康科学部教授 谷本道哉先生よりご講演いただきました。第4次健康いばらき21プランでは、健康寿命の延伸や生活習慣病予防、食育、こころの健康など7分野で施策を展開しています。栄養士・管理栄養士として県民の健康保持増進のため、尽力していきましょう。また、谷本先生の講演では、科学的な根拠に基づいた筋力トレーニングについて実践を交えながらご教授いただきました。筋トレの時間を特別に作らなくても、普段の生活の動作でも鍛えられます。今後の実生活で取り入れていきたいですね。【文責：島田 亜紀美】

在宅訪問栄養食事指導推進研修会

令和7年12月21日、茨城県保健衛生会館において、県の「地域医療介護総合確保基金」を活用した初めての研修会、令和7年度在宅訪問栄養食事指導推進研修会が開催されました。はじめに国立がん研究センター東病院の須永将広先生より「在宅高齢者の実態と医療・介護保険制度、他職種連携について」の講演があり、地域住民に対する健康づくり、介護予防、重症化予防が重要であること、そのためには多職種が専門職の強みを活かし連携して取り組む必要があることをお話いただきました。つづいて駒沢女子大学教授西村一弘先生より「訪問栄養食事指導と栄養ケア・マネジメント」の講演では、事例をお示しいたきながら介入方法や報告書の記載方法などを解説いただきました。そのほか「食べる機能」「経腸・経静脈栄養剤」についての講演もあり盛りだくさんの企画でしたが、在宅分野に関心のある管理栄養士・栄養士が熱心に聴講していました。【文責：鈴木 薫子】

学校健康教育専門研究会総会研修会

学校健康教育専門研究会では、令和7年8月28日に対面・Web併用で、総会及び研修会を茨城県学校給食会にて開催しました。研修会には、茨城キリスト教大学准教授・公認スポーツ栄養士の田井勇毅先生をお招きして、「体重減量・増量時における栄養サポートについて」ご講演をいただきました。日頃、アスリートをサポートする運動生理学に基づいた知見から、個人の活動量や身体づくりを考慮した指導の考え方などを学ぶことができ、児童生徒の肥満や痩身への指導に応用できるものでした。私たち栄養教諭等は管理栄養士・栄養士としての専門性をさらに生かし、児童生徒の健康課題を解決するために個別的な相談指導を推進していくことが求められています。今後、邁進してまいります。【文責：保立 貴博】

栄養ケア・ステーションの取り組みを学会で発表

令和7年9月12日～14日の3日間にわたり、東京農業大学にて「第72回日本栄養改善学会学術総会」が開催されました。学会の一般演題において、茨城県栄養士会栄養ケア・ステーションがアルフレッサ(株)から依頼を受け取り組んでいる、PHR（Personal Health Record）を活用した「クリニックにおけるオンライン栄養指導の取り組み」について、石川会長が発表を行いました。発表後は聴講者との間で取り組みにおける課題や今後の展開について活発な質疑応答が行われました。オンライン栄養指導は診療報酬でも認められているもので、あり、今後管理栄養士が在籍しないクリニック等での普及推進が期待されています。



大阪・関西万博 未来に残すべき和食

令和7年4月13日より大阪府で開催された「大阪・関西万博2025」にて、8月3日(日)から9日(土)の期間に大阪ヘルスケアパビリオンにて「未来に残すべき和食」と題して、各都道府県栄養士会が選定した郷土料理のフードモデルの展示を行いました。茨城県栄養士会は「つけけんちゃんそば」を選定し、食器を信濃化学工業株式会社様よりご提供いただき、株式会社岩崎様が制作してくださいました。

会場では全国都道府県のフードモデルが日本地図を模して展示が行われました。



▲展示の様子とフードモデル

来年度注目の研修会



日本栄養士会の中村会長のお話をもう一度聴きたい！

ご希望にお応えして

令和8年5月22日(金) 定時総会研修会 ザ・ヒロサワ・シティ会館

「これからの栄養士・管理栄養士へ(仮)」

日本栄養士会 中村丁次会長

さらに

診療報酬改定直前の最新情報をお届け

「令和8年度診療報酬改定について(仮)」

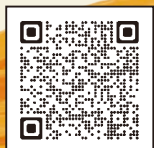
日本栄養士会医療事業推進委員会委員長 宮崎純一先生

※令和8年4月より研修管理システム『マナブル (manaable)』を本格導入し、Googleフォームからお申し込みいただいた研修会は、今後マナブルからのお申し込みとなります。

マナブルでは、研修会の申込履歴や生涯教育単位などの情報を一元管理できるようになります。

登録、ログインについては、日本栄養士会のホームページのマイページから行ってください。

研修会等の情報は茨城県栄養士会SNSで随時更新中



ホームページ



LINE



X



YouTube

連盟活動報告

令和7年11月16日保健衛生会館において、茨城6区選出の衆議院議員・外務副大臣の国光あやの先生をお招きし意見情報交換会を開催しました。日本栄養士連盟井上会長、茨城県栄養士会石川会長をはじめ、役員、会員が多数参加しました。交換会の内容を一部紹介します。

医療関係では食材料費高騰による栄養部門収支の逼迫の改善、栄養士の待遇改善等意見、要望が出されました。国光先生からは食材料費高騰については、国の補正予算で手当する予定、欠年度の診療報酬でも対応予定だが、改定までの間、補正予算で補えたらと考え、昨年重点支援地方交付金という形で増額し、県へ配布している。直接補助金という形もあるとのことをお話をいただきました。

福祉関係では、現場で働く直営栄養士としての立場から実際に感じている課題と今後の制度的支援に関する要望、介護施設の食費、人件費等の高騰に伴う経営課題と要望等が出されました。国光先生からは、介護福祉士は処遇改善加算があるが、栄養士、管理栄養士は入っていないので課題と感じてい



る。国に理解してもらうためにも、県内の国会議員に要望をたくさん出して欲しい。福祉・介護の現場で、食材料費は具体的にいくら必要なのか。栄養マネジメント強化加算は、算定条件が厳しいということなので、緩和していければ。との回答でした。

学校関係では栄養教諭等の配置定数改善、栄養教諭職内容の明確化と見直しの要望が出されました。国光先生からは、配置定数については文科省に確認をとってみる。財務省から「先生」の食事は作らなくても良いのでは、と質問されたときにどう答えたらよいのか？との逆質問に対し「先生」が給食を食べることは食育の一環であると回答してほしいとお伝えしました。短い時間ではありましたが、参加者がそれぞれの立場で感じている事を、対面で直接先生と話し合う機会は大変重要だと感じました。今後も連盟の活動を理解し、多くの皆様のご協力をお願い致します。

【文責:矢代 あや子】

賛助会員活動一覧

商品展示	(総会)	15社
//	(研修会)	3社
ホームページ広告バナー		8社
広告掲載	(総会資料)	3社
//	(FLASH)	3社
広告チラシ	(郵送)	6社
//	(研修会時配付)	2社

ゆたかな食文化のコーディネーターとして
さわやかな集団を目指します

業務用食材の総合商社

URUNO
ウルノ商事株式会社

③ <https://www.uruno.co.jp/>

水戸本店	茨城県水戸市元吉田町 1077-2	TEL 029-304-2555 FAX 029-304-2030
つくば支店	茨城県つくば市みどりの東 18-3	TEL 029-899-2006 FAX 029-899-2016
北関東支店	茨城県筑西市伊讃美 1937-1	TEL 0296-28-8020 FAX 0296-28-8022
東関東支店	千葉県富里市七栄 532-239	TEL 0476-91-2525 FAX 0476-92-2200
埼玉支店	埼玉県加須市北平野 770-1	TEL 0480-78-1321 FAX 0480-78-1322

編集後記

私達を取り巻く環境は日々目まぐるしく変化しています。その中で、物価高騰や米問題、高齢化、持続可能な食料供給等目を向けるべき重要な課題が山積しています。特に物価高騰では、給食運営に大きな打撃があったことと思います。また、食の選択肢が増える一方で、何を選べばよいのか迷う方も多いのではないのでしょうか。特に健康情報過多な今、科学的根拠に基づいた正しい情報を見極めることの重要性も増えています。

私達は食の専門職としてその道筋をつけるべく、日々知識のアップデートが必要となります。同時に、正しく情報を伝えるためのコミュニケーションスキルも重要です。これからも栄養士会ではその道筋を正しくつけられる様々な研修会を実施していきます。

今年は午年、前進や飛躍を象徴すると言われています。人々の健康を守り豊かな生活を支えていけるよう、午年の持つ勢いを受けて飛躍の年にしていきましょう！

【文責:足立 深紗子】